

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームはる ほおずき	評価実施年月日	平成21年10月8日
評価実施構成員氏名	猪股久美、石井茂、村田清美、藤本満恵、太細ちえこ、鎌田今日子、半田吉乃、北市遥、小川真理子、常木拓大		
記録者氏名	猪股久美	記録年月日	平成21年10月14日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「一人ひとりの思いを大切に、自分らしく生活できる自由と安らぎのある家づくりを目指します」という独自の理念がある。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々のケアのアドバイスを通じてやカンファランス、グループホーム会議等の中で、理念の確認を行ない共有している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>面会時等グループホームでの生活を、家族に理解してもらえるように取り組んでいる。また玄関入り口には、理念を掲示している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>盆踊りなどの行事を開催し、近所の方との交流に努めている。また交流が気軽になるように東屋を建設している。挨拶はしている。</p>	○	<p>東屋を今年度建設したので、東屋を活用し、気軽に立ち寄ってもらう取り組みをしていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>近隣の保育所との交流、盆踊りなどの行事の開催、ボランティアの導入などを行い、入居者の方々は楽しんでいる。また、今年度は風邪などで参加できなかったが、町内会の行事(バスレクや花植え)への参加を企画している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>交流はあるが、具体的な話し合いはなく、役立つことにはつながっていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価では、評価を活かし、今後の介護の向上につなげている。外部評価等の改善点を会議で話し合っている。</p>		
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>自己評価や外部評価の結果は必ず報告し、意見を聞き、改善などしている。</p>		
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者の運営推進会議への参加はないが、制度上わからない事などについては、出向きアドバイスを受けている。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度については、グループホーム内で学習会を開催し、理解に努めている。</p>		
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止については、日々のケアのアドバイスや学習会、研修を通して学び、再確認をし、防止に努めている。また、法人内、グループホーム内に委員会が設置されている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時や退居時には、質問など聞き、分かりやすいように説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりやコミュニケーションの際には、利用者の意見の把握に努めている。また、うまく伝えられない方には、職員からさりげなく聞きだせるようにしている。法人内には第三者委員会がある。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	入居者の過ごし方、体調の変化など、その都度報告している。また、月1回家族へ広報誌を送っている。金銭管理については、希望者のみ預かり、毎月集計し、出納表を作成し、渡している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族懇談会や運営推進会議などで、意見をきいている。また日々の面会時に、聞き速やかに検討改善に努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議やユニット会議、また個人面談を行なっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	昨年よりは、職員数は確保されている。3ユニット兼務職員の役割を各ユニットの状況に合わせて、検討している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職数は減少している。ユニット及び法人内異動は年に1～2回である。その際、敏感な入居者に関しては、すぐには関わらないなど配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内では年計画をたて、学習会を開催している。法人内では、職員の経験年数や職種別などに分け、様々な内容で研修を行っている。また、道のグループホーム協議会の研修などにも参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、管内や市のグループホーム協議会の役員会で交流している。また職員は外部の研修や交流会などに参加し、交流している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日々悩みなどを聞くようにしている。親睦会もあり、ストレスの解消の場となっている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個人面談を行い、1年間の目標の設定や希望など聞き取り組んでいる。また、正職員補充の際は、現職員の中からなれるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初対面のため、信頼してもらえるように努力している。信頼のため、自然な関わりや会話を多くもつようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	悩みや希望を聞き、信頼を得るよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、介護保険の認定を受けているかを確認し、受けていなければ申請を勧め、場合により手続き方法を説明している。また、すぐに、入居できなくサービスを利用していなく、サービス利用の必要性がある場合は、相談先や手続きなどを説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前の見学や職員の訪問をし、徐々に馴染めるようにしている。また本人が安心できるよう家族にも協力を得ている。	○	なじみのあるケアが提供できるよう今後も努力していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として、会話をしたり、食事の準備などを通し、一緒に行くこと、支えあうことを大切にしている。	○	様々な時を共に過ごし、思いを把握、共感できるよう今後も一層の努力が必要である。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に様子を伝えたりして、心配事など何でも話し合える関係づくりを目指している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	カンファランスなどで本人と家族との関係を話し合い、良好な関係づくりに努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人の来訪、住んでいた町内会のお祭りへの参加、美容室へいくなどたくさんではないが支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の性格を把握し、お茶の時間や散歩などを通し、良好な関係ができるよう支援している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院し、解約になっても、次の行き先が決まるまで相談したり、見舞いにいったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションや関わりの中から、本人のニーズ把握に努めている。また重度の認知症の方には、行動などからカンファランスで話し合い、検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	カルテには生活歴が書かれており、家族から今までの状況をきいたり、カンファランス等を通し、スタッフ間での情報の共有を行っている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	会話や見守りなどで、個々の生活パターンを把握し、個々の心身状況に応じた生活が過ごせるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の観察、家族の意向から、カンファランスで話し合い、その人らしい生活が送れるようケアプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。心身の変化が見られた場合は、話し合いをし、新たにケアプランを作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿った記録が少ない。	○	観察力を高め、ケアプランに沿った記録の向上に努めていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同法人のデイサービスなどに行く機会が少ない。ほおずきユニットは、心身の低下が著しい方が多く、外出の機会が少なく、他ユニットの外出などの行事と一緒に参加している。	○	外出できない人の計画が少ないので、今後は様々な計画を立てていくようにする。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の保育所、ボランティアドッグやボランティアを導入し、交流している。また避難訓練には消防署の協力を得ている。	○	今年度からボランティアの導入をしたので、積極的に協力をえていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見について、地域包括支援センターに相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれ主治医がおり、受診・往診を受けている。主治医との連携は、看護師中心に行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	看護師を中心に、主治医と相談し行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が常勤であり、健康管理をしている。また、医療面でわからないことは随時相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には看護・介護添書にて、認知症の症状やケアのポイントを伝え、入院時の見舞い、退院時には話し合いをしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族の意向、主治医の協力など、話し合いをしている。家族の迷いなども受け止め、随時話し合いをしている。また、話し合った結果を、職員で共有し、適切な支援を考えている。	○	重度化や終末期について、不安や戸惑いが多く、勉強会などを定期的に行っていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	カンファランスなどで十分に検討し、全員で現在の最良のケアが提供できるよう取り組んでいる。	○	今後も本人の病状や状態をより理解し、できるだけ本人が安楽に終末を過ごせるよう、主治医や職員同士で話し合い共有していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>馴染みの家具をもってきてもらい、レイアウトも自宅に近づけるようにし、ダメージを防いでいる。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いには注意し、本人にあわせた方言などを使用する際には、尊重する心を忘れずに接している。個人情報については、十分に気をつけている。また法人内には、委員会がある。</p>	○	<p>委員会を通して、日々のケアの評価と、適切なケアの提供の為の話し合いや勉強会について行っていきたい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>好きな食べ物やしたいことなど、希望がいえる雰囲気作りをし、声がけなど工夫している。いえない方には、表情などで判断している。</p>	○	<p>言語での希望がいえぬ方の希望などが、さらに理解できるようにしていく。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来るだけペースを大切に「嫌な時、気分が向かない時」などは無理をしないよう、また入居者同士が楽しげに団欒している時は、すぐには声を掛けないなどしている。しかし、1日の中では、職員側の都合になってしまうこともある。</p>	○	<p>個々のパターンを把握し、個々のペースにあわせた支援への見直しをしていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>馴染みの美容室にいらっしゃる方がいる。外出時にはおしゃれをし、普段着についても色合いや季節を考え支援している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事のメニュー作成時には、好みを聞きかたっている。一人ひとりの出来ることに合わせ、一緒に食事の準備や食器洗いを行っている。</p>	○	<p>今後も継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ等を本人の部屋で保管し、好きな時に食べている方がいる。また、タバコはグループホーム内禁煙だが、長年喫煙している方には、場所を定め楽しんでもらっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表にて、確認しパターンを把握している。また、必要時センター方式のパターンシートを使用している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	往診日などから、曜日は決まっているが、体調や本人の気分に合わせ行っている。なるべく入浴が楽しくなるような声かけなどしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活リズムが崩れないように、休息や安眠を支援している。また、眠れない時は添い寝をするなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴から昔好きだったことや特技や趣味を職員間で共有し、共に楽しんでいる。また食器洗いなど役割をもち過している人もいる。	○	外出が少ないので、出来るよう支援していく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症が重度の方が多く、お金を所持している方は一人のみである。紛失することもあり、定期的に確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日ではないが、散歩をし外気浴などしている。誕生日に外出したり、ドライブなどに出かけている。	○	もっと希望にそった外出ができるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と共に、食事など外出する方がいる。外出が難しい人もおり、いける方は他ユニットと一緒に、花見や食事などに出かけている。	○	家族の負担を考えながら、共に外出できることなど検討していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自室に電話を設置している入居者は、自ら家族に電話したりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室や居間などで、ゆっくりと大切な時間が過ごせるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内やグループホーム内に委員会が設置され身体拘束について話し合われている。また、法人内の研修会や学習会、外部の研修等で、身体拘束をしないケアについて学んでいる。	○	これからも事故なく、過ごせるよう検討し、勉強会も重ねて行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることは、身体拘束の一部と捉え行っていない。夜間職員が一人になる時間、感染症(ノロウイルス)が発生した場合には、安全のため使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	さりげなく見守り、所在を把握している。玄関にはチャイムを設置し、出入りが分かりやすいようになっている。	○	これからもプライバシーを守り、事故を防いでいく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室内で危険なものは、個々に合わせ保管及び管理している。またユニット内での洗剤の置き場所など気をつけている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント・ヒヤリハット報告では、分析や再発防止策をたてている。また法人内やグループホーム内に委員会があり、再度分析されている。緊急時や防災時のマニュアルがある。職員同士声を掛け合い、事故を防止するよう努めている。	○	今後も事故防止に取り組んでいく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	入居者の健康状態の変化や懸念される症状等を事前に話し合い、適切なケアを提供している。そのために、研修会や学習会を開催している。またマニュアルがある。	○	今後も急変時の訓練などをしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を実施している。町内会の協力については、法人で話し合われている。	○	今後災害時の訓練をしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	常に家族に連絡し行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや申し送りで、変化を共有し、異変時は看護師に伝え対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての薬の把握は難しく、必要時カルテをみている。また、薬の変更などあった際には、看護師から説明を受けている。	○	少しずつ、知識を深めて行きたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日々、水分量、乳製品や繊維の多い食品など提供し、散歩などの運動に取り組んでいる。しかし、便秘をした際には、個々にあった下剤の調整を行っている。	○	下剤を使用しない、良い方法を取り入れて行きたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの状況に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の入居者にあわせ、ミキサー食、野菜のポイル、栄養剤の飲用、好みのもの物を取り入れ、少しでも栄養が確保できるよう支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は、うがい、手洗い、マスクをし、感染防止に努めている。ユニットの手すりなどは毎日消毒している。またマニュアルがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日、ふきんやまな板を消毒し、清潔にしている。食材は常に新鮮なものを購入し、賞味期限内に消化している。作ったものは、2時間たつと処分している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関や建物周辺に花を置き、また東屋を建設し、入居者や近隣の方が一緒に過ごせるようにしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ユニット内には、季節の花を飾り、季節の飾りをしている。また中庭には、野菜や花を植え楽しんでいる。カーテンで光の調節を常にしている。また不快な思いをしないよう、音など配慮している。ユニット内には非常用ランプがあり、カバーをしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間のソファを中心に、家具の配置を工夫し、一人になれるスペースなどを作っている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用していた家具を持ってきたり、好きなぬいぐるみ、家族の写真をはり、それぞれ居心地よく、過ごせるようにしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>1日4回室温と湿度を確認している。湿度は、洗濯物を干したりし確保している。また気になるにおいは、換気や消臭剤を使用している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>最小限の段差、手すりが設置されている。今年度は、中庭に手すりを設置し、出入りしやすいようにしている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの力を活かして、役割のある生活ができ、自立して暮せるよう工夫している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭には畑があり、野菜や花を植え楽しんでいる。またテラスで焼肉などを楽しんでいる。</p>	<p>○ 今年できた東屋を活かしていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・季節を感じる行事や食事を提供している。
- ・入居者一人ひとりがその人らしく当たり前の生活を送ることが出来るよう日々の入居者のニーズ把握に努めケアに繁栄させている。
- ・人と人がふれ合うことで、やさしさが感じられる。
- ・行事が多様にしている。(もちつき、開設記念、焼肉パーティー、盆踊り、収穫祭、クリスマス、日帰り温泉)